

命を守ること、育てること

校長 川口 真澄

2学期が始まりました。子供達の元気な笑顔に出会えたことに安堵し、とてもうれしく思います。また、夏期休業中のグラウンドと校舎一部改修工事に御理解いただきましたこと感謝申し上げます。今月下旬の竣工に向けて、グラウンドは芝生を伸長、定着させて子供達の来場を待ちます。

私達教職員は、2学期からの学校生活において、子供達の大切な命、かけがえのない日常、安心・安全な生活を守っていかねなければならないと、気持ちを引き締めて取り組んでまいります。

日々の子供達の生活を充実させて「資質や能力」を伸ばし、「分かった」「楽しい」その笑顔のために授業改善、専門性を高めることも教員の使命の一つです。その育てる力に「生きる力」があります。今回改訂された特別支援学校学習指導要領（小・中学部）において重視されているのも、子供達が能動的に「生きる力」を育てるために、各学校の教育活動や学校運営の取組を計画的、組織的に工夫、改善して質の向上を図り、必要な力を育てていくことです。そのためには、児童・生徒一人一人の障害の状態や特性に応じて育てていく「必要な力、資質や能力」を具体的に、分かりやすく設定していくことが重要となります。今月末の個別指導計画の評価におきましても、学習の成果を確認するだけでなく、一人一人に「必要な力」とこれまでの学びの過程、そして本人、保護者、教員の思いを共有できればと思います。

8/26, 27 には、「全国特別支援学校知的障害教育校 P T A 連合会 全国研究協議大会東京大会」が開催されました。御参加、御協力頂いた P T A 会員の皆様ありがとうございました。そのスローガンに示されました「すべては子供たちの笑顔のために」は、皆同じ思いです。移転から 1 年、本校が子供達の笑顔あふれる「共に伸びる」学校と認められるよう、これからも努めていきます。



『 世界ともだちプロジェクト ～ブルキナファソの音楽を楽しもう～ 』

主幹教諭 関口 淳

7月7日、七夕の日に「世界ともだちプロジェクト」の取組として、「ブルキナファソの音楽を楽しもう」を行いました。

オリンピック・パラリンピック教育の一つとして行っている「世界ともだちプロジェクト」は、世界には多くの国があり、その国の様々な人種や言語、文化、歴史などを学ぶことを通して、単に知識を広げるだけではなく、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解するものです。本校では、スウェーデン王国・バミューダ・ブルキナファソ・タンザニア連合共和国・ウズベキスタン共和国が交流対象となっており、その中でもアフリカ大陸にあるブルキナファソを対象として、今年度も音楽を楽しむ活動を行いました。

当日は、ベノワさん、ドゥリッサさん、藤井さんの3名が来校され、アフリカの打楽器の演奏に多くの児童・生徒が手拍子をしたり、体を大きく揺らしたり、立ち上がったりして楽しみました。

また「ヒールザワールド」の曲をバックに、児童・生徒が参加した映像には、歓声をあげたり、感動したりしていました。そして児童・生徒代表による、課題曲「たなばたさま」の「のどじまん大会」もとても盛り上がりました。中学部生徒には、ブルキナファソの公用語であるフランス語ミニ講座も行なわれ、良い交流体験となりました。

